

関西大学
東西学術研究所紀要
53

論説

日本における『家礼』式儒墓について
——東アジア文化交渉の視点から（一）…………… 吾 妻 重 二（ 3 ）

大安寺僧戒明が請来した唐代の宝誌像 …………… 西 本 昌 弘（ 41 ）

開高健『日本三文オペラ』論
——在日朝鮮人キムの役割の重要性—— …………… 増 田 周 子（ 55 ）

下村観山筆《大原御幸》について …………… 村 木 桂 子（ 73 ）

『新勅撰和歌集』除棄歌のゆくえ
——『続後撰和歌集』の撰集から—— …………… 瀧 倉 朋 世（ 95 ）

研究ノート

石濱文庫収蔵書簡に見る仏英調査旅行関連資料について ……… 玄 幸 子（ 117 ）

論説

清初扎萨克喇嘛制度的形成
——从内外两库伦体制到多库伦体制—— …………… 池 尻 阳 子（ 3 ）

Re-Examining Japanese Mythologies:
Why the *Nihon Shoki* has two books of myths but the *Kojiki* only one
…………… ヴィットカンブ ローベルト F.（ 13 ）

荒川＋ギンズにおける「使用法」の使用法
——「バランスを失う」ことと積極的受動態の構え—— …………… 小 室 弘 毅（ 41 ）

長崎来航唐船主による書法受容の一形態 …………… 松 浦 章（ 61 ）

浅析《拜客訓示》中的耶穌會士行跡考 …………… 彭 强（ 83 ）

Robinson Crusoe 的译本研究
——以牛山良助版和英爲霖版为中心…………… 李 云（ 107 ）

南北戦争直後のアメリカから見た清日両国の使者
——蒲安臣（パーリンゲーム）使節団と岩倉使節団をめぐる米紙の報道——
…………… 黄 逸（ 121 ）

住友家の人々と泊園書院
——『南汀遺稿』の考察を中心として—— …………… 横 山 俊 一 郎（ 139 ）

近世ベトナム北部地域における仏典刊行事業 …………… 宮 嶋 純 子（ 155 ）

ベトナム紅河デルタの専業村における家内工業の実態
——ハーナム省チュウ村のライスペーパーを事例に—— …………… 齋 藤 鮎 子（ 173 ）

資料紹介

昭和初期の子供向けの中国語教材の一端
——めんこ・かるた・新聞…………… 永 野 善 寛（ 209 ）

研究ノート

景観からみた大阪の街理解の方法
——古地図アプリを用いて—— …………… 岡 絵 理 子（ 233 ）

羅振玉と山本竟山の文人交流
——書簡と筆談を中心に—— …………… 蘇 浩（ 251 ）

二〇二〇年四月

関西大学東西学術研究所

東西学術研究所紀要

第五十三輯

（二〇二〇年四月）

関西大学東西学術研究所

BULLETIN OF THE INSTITUTE OF ORIENTAL
AND
OCCIDENTAL STUDIES, KANSAI UNIVERSITY

No. 53

APRIL 2020

CONTENTS

Articles

Jia-li Style Confucian Tombs in Japan: A Study from the Perspective of Cultural Interaction in East Asia, Part I …………… AZUMA Juji（ 3 ）

The image of Hoshi that Kaimyo—a Buddhist priest of Daian-ji Temple—brought to ancient Japan from Tang Dynasty China …… NISHIMOTO Masahiro（ 41 ）

Study of “Nihon Sanmon Opera” by Takeshi Kaikou:
The importance of the role of Korean Kim …………… MASUDA Chikako（ 55 ）

A Study of Cloistered Emperor’s Visit to Ohara (Ohara Goko-zu)
by Shimomura Kanzan …………… MURAKI Keiko（ 73 ）

The Whereabouts of the Wakas that were Removed from *Shinchokusenwakashū* …………… TAKIKURA Tomoyo（ 95 ）

Study Note

A description of Dunhuang manuscripts research at London and Paris found in the letters held by the Ishihama Collection, Osaka University Library
…………… GEN Yukiko（ 117 ）

Articles

Formation and implementation of the Jasak Lama system in the early Qing period …………… IKEJIRI Yoko（ 3 ）

Re-Examining Japanese Mythologies:
Why the *Nihon Shoki* has two books of myths but the *Kojiki* only one
…………… WITTKAMP, Robert F.（ 13 ）

How to use “Directions for use” of Arakawa + Gins’ architectural works
——“losing balance”and the bodily set of “Positive Passivity” …… KOMURO Hiroki（ 41 ）

A form of acceptance of calligraphy by a Nagasaki visiting Chinese
Junk merchant during the Edo period …………… MATSUURA Akira（ 61 ）

A brief analysis of the behavior of Jesuits in
Instruction pour les visites de Mandarins …………… PENG Qiang（ 83 ）

Comparing the Translations of *Robinson Crusoe*
(J. D. Watson’s Edition) in Chinese and Japanese …………… LI Yun（ 107 ）

The First Ambassadors of China and Japan to the United States around 1870
——The American Newspaper Reports on the Burlingame Mission and the Iwakura Mission …………… Yi HUANG（ 121 ）

Sumitomo Family and the Hakuen Shoin. Focusing on *Nantei Ikō*
…………… YOKOYAMA Shunichiro（ 139 ）

Publishing project of Buddhist wooden block scriptures in Northern Vietnam in the early modern times …………… MIYAJIMA Junko（ 155 ）

The Craft Villages of Rural Industry in Red River Delta, North Vietnam:
A Case Study of Rice Paper Rural Industry in Cheu Village, Ha Nam Province …………… SAITO Ayuko（ 173 ）

Communications

A part of Chinese teaching materials for children in the early Showa era
——Menko, Karuta, and Newspaper …………… HINO Yoshihiro（ 209 ）

Study Notes

How to understand Osaka city from the viewpoint of landscape
——Using the old map application—— …………… OKA Eriko（ 233 ）

The Literati exchanges between Luo Zhenyu and Kyōzan Yamamoto:
Centering on letters and written conversation …………… SU Hao（ 251 ）

EDITED BY
THE INSTITUTE OF ORIENTAL AND
OCCIDENTAL STUDIES
KANSAI UNIVERSITY, OSAKA

編集後記

本年度の紀要には、多数の投稿論文の中から十九篇が採択され掲載された。年明けから流行が本格化したコロナウイルスのために、中国からの投稿では、インターネット障害によって校正作業が遅延し、編集作業に大きな影響が出た。コンピュータ社会の弱点の一端が表面化したわけだが、それでも諸外国とメールでやり取りできる体制は非常にありがたい。

メールと並んで、パソコンによる文章入力、執筆者の抵抗感を緩和し、論文が書き易くなったように思われる。もちろん、機械が文章を書いてくれるわけではないので、当然のことながら、内容が定まっていなければ、執筆は進まない。しかし、それでもパソコンによる文章化は、研究者の論文執筆を大いに有利にした。

今からおよそ半世紀前に、修士論文を万年筆による手書きで執筆し、文字を書き間違えるたびに原稿用紙を破り捨て、思わぬ手間がかかったため、提出の締め切り時間に2時間遅れ、留年となつて、指導の先生に叱られた筆者にとっては、あの時にパソコンなどの機械があったなら、無事に2年間で修士（博士前期課程）を修了できていたのではないか、という詮無い繰り言と溜息が漏れる。

ただ、問題と思われるのは、機械によつて、どこまでも簡単に、そして徹底的に文章の修正が可能となったために、多くの執筆者の文章が似てきたように感じるのは私だろうか。文体や論文構成などの形式も、多くがよく似ており、半世紀前の原稿用紙に手書きの原稿の方が、個性的で、文章にリズムがあったように思われる。この状況を見て、新しい時代の文体と形式が生まれたのだ、というのは正論かも

しないが、人文科学の論文から「人間的なもの」が徐々に駆逐されていくようで悲しい。こうした感想を書くような老人は、黙って消え去るべきだ、という天の声が聞こえてくると、なおさら悲しい。

今回も、限られた査読委員によつて、かなりの量の査読作業がなされたが、多忙な中、専門分野の異なる論文も多数査読していただいた先生方に、お詫びとともに感謝の気持ちを伝えたい。自己の専門とは異なる論文を読み、勉強になったと言っていただけの論文が、一体どれぐらいの数あったのか知りたいものである。そうした学問における越境の感覚が、研究の内容に深く反映されることを夢見て筆を置く。
 (N.N.)

二〇二〇年四月一日発行			
発行	◎ 関西大学東西学術研究所	所長	沈 国 威
編集者	関西大学東西学術研究所	編集委員長	中 谷 伸 生
		編集委員	内 田 慶 市
			近 藤 昌 夫
印刷者	株式会社 遊 文 舎		